

平成26年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	長崎県教育委員会
-------	----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input checked="" type="checkbox"/>	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input type="checkbox"/>	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
長崎県教育委員会	特別支援学校	知的障害	きぼうがおかこうとうくべつしえんがっこう 希望が丘高等特別支援学校

2 研究課題

○ モデル校に就職支援コーディネーターを専任配置し、就労支援のあり方を研究することで、モデル校における就労支援を強化するとともに、その効果を他校へ波及させる。

3 研究の概要

○ 障害のある児童生徒の自立と社会参加を目指すためには、早期からのキャリア教育を推進し、高等部段階の生徒一人一人の多様な進路希望に応じた進路実現を図ることが求められている。そこで、モデル校である長崎県立希望が丘高等特別支援学校に就職支援コーディネーターを平成26年度から専任配置し、就職率の向上を図るとともに、就労を目指す生徒の社会生活への円滑な移行支援、アフターフォローの強化に取り組んだ。

○ その結果、生徒の特性と職種等のマッチングの精度があがり、効率的・効果的な職場開拓を行うことができ、企業就労者が加速度的に増加するなど、本事業の成果が見られた。併せて、卒業生のアフターフォローの充実を図ることができるようになった。

4 研究の成果

- 知的障害のある生徒の就労は、職場実習等を通して事業所の方に生徒の障害の状態や特性を深く理解していただくとともに、支援制度等を十分に活用しながら個々の生徒と仕事内容をマッチングさせるなど、雇用や定着につなげるためのきめ細かい就労支援が求められる。モデル校に就職支援コーディネーターを専任配置したことにより、就職支援コーディネーターが生徒の授業の様子等を実際に観察し生徒の特性等を熟知したうえで、生徒一人一人の能力や特性に応じた現場実習先や就労先を開拓することができ、生徒の特性と職種等のマッチングの精度があがり、効率的・効果的な職場開拓を行うことができた。
- その結果、平成26年度一般就労する生徒が加速的に増加した。
【一般就労した生徒数】
 - ・平成25年度：18名
 - ・平成26年度：28名
- 就職支援コーディネーターを専任配置したことで卒業生のアフターケアが充実した。
【アフターケアの件数】
 - ・平成25年度：5件
 - ・平成26年度：20件

5 課題と今後の方策

- 生徒の特性と職種等とのマッチングの精度をさらに高め、就労支援・アフターフォローの一層の充実を図ることが課題となる。このために就職支援コーディネーターが生徒の障害の状態や特性をより深く理解するための観察の視点や、担任等とのより効果的・効率的な情報共有のあり方を検討する。
- また、モデル校は、「職業教育の充実に向けた教育課程の編成」の実践研究に取り組んでいる。就労や卒業後の豊かな生活につながるキャリア教育のためには、就職支援コーディネーターが職場開拓やアフターケアを行う中で得られた情報が参考となることも多いことから、実践研究におけるキャリア教育の実践及び授業改善、教育課程の編成等に就職支援コーディネーターが得た情報を活用することで、より充実したキャリア教育の推進を図る。